

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月31日現在

機関番号：17401

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22700674

研究課題名（和文）クロスメディアによる高校生の性の健康教育プログラムの開発と評価

研究課題名（英文） Development and evaluation of a cross-media educational program for youth sexual health

研究代表者

河村 洋子（KAWAMURA YOKO）

熊本大学・政策創造研究教育センター・准教授

研究者番号：00568719

研究成果の概要（和文）：

本研究は、青少年に対する性の健康に関する健康教育機会を地域社会に増やし、よりよい環境整備のために、特に高校生を対象にエンターテイメント・エデュケーション手法を用いたラジオドラマとテイラリングの手法を用いた e-ラーニングプログラムにより構成されるクロスメディアプログラムを開発し、評価することを目的とし、実施した。形成的評価活動を基盤とした理論に基づくプログラムの開発までを完了したが、効果検証の評価については、協力者のリクルートが難航し、終了後の現在も継続中である。

研究成果の概要（英文）：

This research was to develop and evaluate a cross-media program for sexual health of mid- and late teenagers to contribute to building the better environment of the local community, in which the youth can develop sound and healthier perceptions regarding sexuality. The program that consisted of a radio drama based on the entertainment-education strategy and a e-learning program using the tailoring method for communication has been successfully developed through the formative evaluation process. Due to the challenges in recruiting participants, however, the outcome evaluation is being in progress after the official period of the research project.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：ヘルスコミュニケーション

科研費の分科・細目：総合領域、健康・スポーツ科学

キーワード：性・エイズ教育

## 1. 研究開始当初の背景

個人を取り巻く環境は、個人の心身の健康そのもの、あるいはそれに影響を与える行動

に対して、支援的あるいは阻害的な役割を果たす。青少年の性の健康を支える行動やそれを支える価値観や考え方も、彼らを取り巻く

環境の中で構築されることを忘れてはならない。学校が終われば習い事や塾に通い、先生や親以外の地域内の大人との接点をもつことがほとんどない核家族に育つ子どもたち。携帯を持つのが当たり前の中高校生たち。性に関することを茶化してしか話さないバラエティ番組。このような社会の「当たり前」の中に育つ子どもたちが、「性」というきわめて個人的な問題について、友人や大人たちと話したり、自分が人として成長する上でいかに大切なことなのかを、自分自身で考える機会に自然に接することは少ないと言えよう。

学校での性教育は、青少年にとって貴重な性の知識を得る機会である。しかし、家庭や地域社会の子どもを育てる力が脆弱化し、学校は多様なニーズへの対応が求められ、多重な負荷に何とか耐えている状態と言える。さらに、限られた時間の中で全ての学校で有意義な性教育機会が提供されているとは言い難い。地域社会の中でも、青少年がまじめに性の健康について考える機会が増え、支援的な環境が整備されていくことが望まれる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、高校生の「性の健康」を目指した全人的なアプローチによる健康教育プログラムの実現に向けて、①社会心理学、行動学理論に基づいた高校生の性に関する特徴の把握と、②①によって把握した高校生の文化的・社会的価値観をもとに、エンターテイメント・エデュケーション（以下、EE）とテイラリングの手法を用いて、複数のメディアを活用した「クロスメディア」による高校生の性教育プログラムを開発し、③その効果を検証することであった。

## 3. 研究の方法

本研究は、包括的な性教育を構成する 2

種の介入を効果的なものにするため、まず、高校生の性行動に関する綿密な形成的調を行った。その分析結果をもとに、EE ラジオドラマとテイラリングコンピュータプログラムの2種の介入を行動学、社会心理学理論に基づいて開発した。そして、それぞれ単独の場合と、2種の介入を同時に活用した複合的なクロスメディア型介入の場合の、性に関する行動、態度、知識、スキルの変化による評価検証を実施した。

4. 研究成果 平成22年度は、主に①の目的を達成するために、フォーカル、インフォーマルな形で調査を実施した。熊本県内の高等学校の養護教諭、母子保健医療や行政担当者から意見を聞きながら、取り組むべき課題の焦点を明確にした。その中で、やはり性に限らず健やかな育成のために「ライフスキル」習得の重要性が見えてきた。そこで、ライフスキルと性に関する意識や行動、あるいは行動に関連があると思われる心理的な要素との関連性を検証することができる枠組みで質問紙調査を企画し、4つの県内高等学校の協力を得て実施した。1340名の高校生からの回答を得ることができ、この結果はラジオドラマとコンピュータプログラムで構成されるクロスメディア健康教育プログラムの基盤設計の軸となるものである。

加えて、2006年に実施された青少年の性行動に関する調査のデータの貸与を受けて、プログラム開発に有用な2次分析を行った。この分析結果も、プログラム開発の基盤構築に活用した。

平成23年度は、前年度までの調査結果を踏まえ、対象聴取者にも含まれる大学生、高校生を含む若者の参加と地元マスメディアの強力なサポートを得て、8つのストーリーからなるオムニバス形式のEEラジオドラマを制作した。具体的には、ラジオドラマの台

本を執筆する大学生ライターズチームの構成と実動、オーディションによる地域の若者のキャストとしての参加、そしてFM熊本の制作技術の提供であり、制作プロセス自体が有意義な学びとなった。

2年目の成果の中で最も強調すべき点は、わが国で初めての事例となるEEプログラムを参加型で推進したことである。開発プロセスの取り組み自体がヘルスプロモーションの観点から重要であることが確認でき、このプロセスを記述し、意義と重要性を研究成果として示していくことも課題の一つであると考え。

最終の平成24年度は、ラジオドラマを計画通り完成させ、地元FM熊本で平成24年6月4日から8週間にわたり、平日午後9時55分から5分間で放送した。



図1：ラジオドラマ『17歳の保健室』番組紹介  
また、開発の遅れたテイラリング e-ラーニングプログラムも9月から実装を開始した。加えて、エイズ予防財団より助成金を獲得し、

世界エイズデー用のラジオドラマも制作し、平成24年12月1日に放送した。

2つの個別プログラムの単体および複合的な効果検証は、計画とは異なる2つの方法で、現在もデータ収集を継続している。まず、首都圏大学に通う学生を対象にした事前事後デザインによるインターネット調査である。これは学生に対してラジオドラマプログラムの一部/全部、テイラリング e-ラーニングプログラムの組み合わせを割りつけて提供し、性の健康に関する知識および態度に関する質問にインターネットで回答してもらい、取り組み前後の変化を検証する。二つ目は、県内高等学校の協力を得て、高校生のプログラム視聴前後の知識と態度の変化をみるための質問紙調査である。大学生向け調査に関しては、平成24年11月よりデータ収集を開始したが、リクルートおよび事後データ収集に難航し、研究期間を終了した現在も継続しているところである。高等学校については、今後も協力校が増える見込みであり、データ収集を継続する予定である。

数的なデータに基づくものではないが、ラジオドラマというかたちを活用した青少年の性の健康教育プログラムに対する地域社会の反響は大きいと感じている。例えば、FM熊本の番組審議会では、本研究の成果であるプログラムに対する評価は高く継続を要請する声があり、新聞でも取り上げられた。また、養護教諭や保健行政担当者などから、教材としての活用を希望する意見があった。

このような質的なデータも記録し、個人を取り巻く社会的な変化を捉えると共に、教材として有効に活用するための方法についても評価活動から見えてきたものを基に考えていく必要があると思われる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① Kawamura, Y., & Kohler, C. Applying Sabido's entertainment-education serial drama strategy in the U.S. and Japan, *Critical Arts*, 27(1), 2013, 93-103, 査読あり
- ② 河村洋子、Arvind Singhal, エンターテイメント・エデュケーションの過去とこれから:我が国の公衆衛生分野における活用可能性、*日本健康教育学会誌*、21、2013、46-54、査読あり
- ③ Kawamura, Y, Sex-related perceptions associated with sexual activity status among Japanese adolescents who heavily use text messaging, *Int J Adol. Med Health*, 24(4), 343-348, 2012, 査読あり
- ④ 河村洋子、がん予防のための運動普及に向けて—エンターテイメント・エデュケーションの活用の可能性—、*体育の科学*、62 (2)、2012、103-108、2012、査読なし (招待)
- ⑤ 河村洋子、青少年における性に関する情報源と性に対するイメージの関連性.、*熊大政策研究*、2、2011、55-66、査読なし

[学会発表] (計4件)

- ① Kawamura, Y, Community development from the viewpoint of health, *International Syposium for Public Service Local, Governance and Performance*, 2012. 11. 21, People's Republic of China, Shanghai.
- ② 河村洋子、高校生の性に案する認識と性

行動、第59回日本学校保健学会、2012.

11. 10、ポートピア国際会議場 (神戸)

- ③ 河村洋子、エンターテイメント・エデュケーションによる青少年の性の健康教育プログラムの開発、第71回日本公衆衛生学会、2012. 10. 24、山口県立教育会館 (山口)
- ④ 河村洋子 (尺度開発に向けたライフスキルの構成要素の探索的研究 (ポスター))、第70回日本公衆衛生学会学術総会、2012. 10. 19、秋田県公民館 (秋田)

[図書] (計1件)

- ① 河村洋子 アービンド・シングハル, エベレット・ロジャース (著). 成文堂、政創研叢書 8『エンターテイメント・エデュケーション—社会変化のためのコミュニケーション戦略—』、2011、329頁

[その他]

鶴亀高校保健室ホームページ

<http://tsurukamehoken.org>

ラジオドラマ『17歳の保健室』本編 Podcast

<http://blogs.fmk.fm/blog/m/c/17.php>

ラジオドラマ『17歳の保健室』スピノフ〜君と一緒に〜 (平成24年12月1日世界エイズデーに放送) Podcast

<http://blogs.fmk.fm/blog/m/e/17-7eb0.php>

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

河村 洋子 (KAWAMURA YOKO)

熊本大学・政策創造研究教育センター・准教授

研究者番号 : 00568719

(3)連携研究者

前田 ひとみ (MAEDA HITOMI)

熊本大学・大学院生命科学研究部看護学講座・教授

研究者番：90183607

小菌和剛 (KOZONO KAZUTAKE)

熊本県立大学・総合管理学部・准教授

研究者番号：30381015